



東ティモール

学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

2023 年 事業報告書



事業概要

プロジェクト名	学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業
目標	子どもや識字率の低い成人の学習成果の向上、家族の幸せに貢献する
意図する成果	1) 男子、女子の学習成果の向上 2) ジェンダー平等と家族の社会的・経済的な幸福度向上 3) 事業の継続実施
支援期間	2022 年 7 月 1 日 ～ 2027 年 6 月 30 日
支援総額	\$ 7,471,522.00
本報告対象活動期間	2023 年 1 月 1 日 ～ 2023 年 12 月 31 日

要旨

この報告書は、2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までのプロジェクト実施全般の概要を説明するものであり、東ティモールにおける表示期間中のラファエック・プロジェクト（LLM）全般を概説しています。このプロジェクトは、CARE 東ティモール事務所（CITL）によって管理・実施されています。

2022 年 6 月、CITL は主要な長期パートナーであるニュージーランド外務貿易省（MFAT）と、ラファエック・プロジェクト（LLM）の実施をさらに 5 年間延長することに合意しました。この延長により CITL は、東ティモールの教育セクターの発展を促進するため、教育省（MoE）を引き続き支援し、識字能力、計算能力、批判的思考力、ジェンダー平等、障害者のインクルージョン、衛生、女子のリーダーシップ、女性の発言力、生徒中心の教育方法、家族の経済的・社会的幸福を支える農業、健康、栄養における生産的な家事実践の向上に重点をおくことができました。

ラファエック・マガジンは、遠隔地域のすべての学校、生徒、コミュニティに届く唯一の読み物であり、全国の生徒、教師、コミュニティにとって不可欠な補助学習教材となっています。教育省（MoE）と共同で開発されたラファエックの雑誌の内容は、国のカリキュラムに密接に沿ったものでもあります。ラファエック・マガジンは、雑誌として印刷・配布されるだけでなく、ラファエックの公式ウェブサイト（www.lafaek.tl）でデジタル版が公開されています。

この 1 年、ラファエック・プロジェクトは 2023 年版の全 3 冊を含む、生徒、教師、家庭、学校図書館を含むパートナー向けの教材を制作、印刷、配布してきました。現在、ラファエック・プロジェクトは 5 種類の雑誌を制作・配布しています。

- 「ラファエック・キーク」：プリスクール、1 年生、2 年生向け
- 「ラファエック・プリマ」：3 年生から 6 年生向け
- 「ラファエック・バ・マノリン」：プレスクールおよび、1 年生から 6 年生までの教員を対象とした指導および教授法
- 「リヴル・セマティク・バ・マノリン（教員用特別版）」：教員がレッスンの計画と実施をサポートするためのガイドブック

- 「ラファエック・コミュニティ」：男女平等、農業、健康、栄養など、さまざまな分野の情報を保護者に提供

前回の2年ごとの進捗報告で述べたように、MFATとLLMプロジェクトは、5年間のプロジェクト・サイクルの間、授業計画を補うための参考書として、就学前の教員と1年生から6年生までの教員向けの新しいガイドブック「リヴル・セマティック・バ・マノリン」を導入しました。「リヴル・セマティック・バ・マノリン」は、主に過去の教師向け雑誌に掲載されたラファエックのコンテンツを再利用し、いくつかの新しいコンテンツと組み合わせたものです。初版の開発段階は2022年12月に終了しております。最終製品は文部省の教育課程課に提出され、さらなる改訂のためのフィードバックが得ることができました。最終的に「リヴル・セマティック・バ・マノリン」の初版は2023年1月下旬に、MoEのナショナル・カリキュラム・コーディネーターとLLMの技術諮問委員会のメンバーによって印刷が承認され、他のすべてのラファエック雑誌の2023年第2版とともに、13の市町村すべての就学前・小学校教師約1万人に配布されました。

CARE 東ティモール事務所（CITL）は、LLMプロジェクトを持続可能な社会的企業、独立した現地登録の財団へと移行させるための重要なステップを踏み出しました。ラファエックを財団として登録する手続きは進行中です。法的な規約と決議、理事会と監査委員会の職務権限は起草され、見直されました。CITLは、2024年度中にこれらの文書を完成させる予定です。新しいラファエック財団の構造は財団のニーズに応えるために開発されました。法務省への登録は、2024年度の終了時に完了する見込みであり、登録プロセスの終了時点で財団は直ちに機能することになります。プロセスを加速するために、CITLは、シニアCITL管理チームとラファエック・シニアチームで構成されるラファエック移行タスクフォースチームを以下の目的で設立しました。

- ラファエック・ラーニング・メディアの財団への移行についてCITLを支援
- 移行プロセスで直面する課題に取り組むラファエック・リーダーシップを支援
- 最終化された移行計画の進捗状況を監視

LLMプロジェクトの提唱戦略の一環として、若い学生や（障がい者を含む）若者は、他の学生が将来の目標とキャリアの夢を描くための自信を養い、励まされることを目指して、東ティモール政府の主要な模範男性および女性と同国の市民社会組織にインタビューを行い、リーダーシップと意思決定に関する経験を共有しました。これらのインタビューは、インタビューに立ち会った全国ネットのテレビ局を通じて全国放送されました。さらに、これらのインタビューの要約は、今後発行されるラファエック・マガジンに掲載される予定です。

主な実績

ラファエック・マガジン

コンテンツ開発のプロセス

この報告年度中、制作・出版チームは 52 校のプレスクールと小学校を訪問し、教師用雑誌の内容に関する相談と収集作業を行い、新しい内容が教師にとって適切で適切、かつ使いやすいものであることを確認しました。この活動には、全市町村の男性教師 115 人、女性教師 149 人が参加しました。事前テストのために、チームは半都市部と農村部の 17 校を選びました。そして合計 17 人の男性教師と 20 人の女性教師が事前テストに参加しました。

学校訪問の際、チームは「ラファエック・キーク」と「ラファエック・プリマ」を使う生徒を対象に、内容の事前テストも実施しました。事前テストでは、雑誌の最初のページから最後のページまで、すべての内容がカバーされていました。プレテストは **56 校** で実施されました。合計 **327 人の男子生徒と 375 人の女子生徒** が参加しました。プレテストの目的は、文章、イラスト、デザインに関する全体的な内容や使いやすさについて、生徒の理解度を測定することでした。この結果は、「ラファエック・キーク」誌とプリマ誌の各エディションの内容を改善する際に、十分な情報に基づいた意思決定を行うための強固な基盤となりました。

コンテンツの事前テストは、教師や生徒だけでなく、報告年度中に「ラファエック・コミュニティ」誌を受け取った家庭も対象としました。コミュニティ誌にメッセージを掲載するパートナーは、対象となる世帯の人々が特定のメッセージをどのように受け止め、日常生活でどのように活用しているかを知りたがっています。スポンサー・コンテンツの事前テスト・プロセスは、ラファエック・プロジェクトと関連パートナーとの協力によって組織されています。事前テストは、パートナーが活動を実施する指定された対象地か、両者が合意したランダムな場所のいずれかで実施されました。報告期間中、Mercy Corps、The Asia Foundation、Rede Feto Timor-Leste、HATUTAN、Covid-19 Health and System Strengthening (CohSIS) プロジェクトのために、Baucau、Dili、Liquica と Lautem でスポンサーコンテンツの事前テストを行いました。

ラファエック・プロジェクトは、東ティモールの幼稚園や小学校のカリキュラムに沿った質の高い教師向け情報誌を作成するため、ディリ市内の 4 つの学校から 6 人の有資格の教師で構成される「教師ワーキンググループ」を設立しました。このグループの役割は、教育学的アプローチに関する見識を検討、議論、共有すること、現行版の内容との関連性を議論すること、そして教師が生徒の注意を引きつけながらよりよい学習ができるような革新的な方法を模索することでした。このプロジェクトは、このグループの助けを借りて、雑誌のコンテンツの質、信頼性、有用性、使いやすさ、正確性を大幅に向上させ、教師や文部科学省のカリキュラム実施努力にとって価値あるリソースにすることを目指しています。「教師ワーキンググループ」は、各版の外部諮問委員会のレビュー会議の前に、四半期ごとに会合を開きます。

1/2023 年版、2/2023 年版、3/2023 年版の各版の制作サイクルの終わりに、3 回の外部諮問委員会が開催されました。会議では、プロジェクトが雑誌を印刷・配布する前に、諮問委員会のメンバーが各校の雑誌の内容を検討し、承認しています。審査と承認プロセスは、教師用特別版を含む生徒用と教師用の雑誌を対象としています。

モニタリング結果

モニタリング・評価・学習チームは、男性 337 人、女性 402 人の計 739 人の生徒にインタビューを行いました。また、対象校 360 校の教員 138 人（男性 51 人、女性 87 人）にもインタビューを行いました。さらに、本プロジェクトは、全国で合計 299 人の世帯主（男性 63 人、女性 166 人）へのインタビューも行いました。

モニター調査の結果、回答者の 96.55%が、親が家庭で雑誌を活用し、子どもと一緒に読んでいると答えました。この調査結果は、雑誌が学校レベルでも家庭レベルでも適切かつ重要であり続け、生徒の読書能力を高めていることを示しています。さらに、ラファエックの中間評価（2021 年）では、「子どもに読み物を与えている家庭では、89%が完全に雑誌に頼っており、生徒の総合的な読み書き能力は、雑誌を読んだこと、あるいは雑誌に載っている言葉遊びや物語を思い出せることと、強く正の相関関係がある。家庭が雑誌を使う主な目的は、子どもたちが一般的なことを学んだり（69%）、読み書きを学んだり（32%）、物語を読んだり（22%）することである」と示されています。

「ラファエック・キーク」のモニタリング結果

報告年度中、MEAL チームは幼稚園と小学校（1 年生と 2 年生）の生徒にインタビューを行いました。MEAL チームは、合計 377 人の生徒とインタビューを行うことができ、そのうち 204 人（54%）が女子生徒、173 人（46%）が男子生徒でした。モニタリングの結果、インタビューを受けた生徒の 97.61%が雑誌を受け取っており、97.35%の生徒が年 3 回受け取っていると答えました。また、96.55%の生徒が雑誌を家に持ち帰ったことがあると答え、96.29%の生徒が雑誌のおかげで学校に通うのが楽しいと答えました。

MEAL チームが収集したデータによると、97.61%の生徒が家庭や学校で雑誌を利用したことがあると答えました。また、96.55%の生徒が、家で親が雑誌を読んでいるのを見たり、家で親と一緒に雑誌を利用したことがあると答えました。

「ラファエック・プリマ」のモニタリング結果

「ラファエック・プリマ」誌は、3、4、5、6 年生の小学生を対象としています。MEAL チームは、報告期間中に「ラファエック・プリマ」誌を受け取る資格のある生徒にインタビューを行いました。2023 年度、MEAL チームは全国で 362 人の生徒：うち 198 人（55%）が女性、164 人（45%）が男性に面談インタビューを行いました。MEL の調査結果によると、98.90%の生徒が雑誌を受け取っており、97.79%の生徒が年 3 回雑誌を受け取っていました。また、98.07%の生徒がラファエック・マガジンを持ち帰り、98.62%の生徒が「ラファエック・プリマ」のおかげで学校に通うのが楽しくなったと回答しました。ラファエック・マガジンの利用に関しては、98.90%の生徒が家庭や学校で「ラファエック」を利用しているという結果が出ました。また、88.40%の生徒が、両親が家庭でコミュニティ誌を読んでいるのを見たと答えました。さらに、調査対象となった 198 人の女子生徒のうち、97.98%がリーダーシップや意思決定能力が向上したと感じています。

「ラファエック・バ・マノリン」のモニタリング結果

今年度、MEAL チームは全国 180 の幼稚園と小学校から、女性 134 名（67%）、男性 66 名（33%）、合計 200 名の教師にインタビューを行いました。インタビューを受けた教員の 97%以上が、年 3 回ラファエック・マガジンを受け取っていると答えました。しかし、インタビュー時にラファエック・マガジンを提示できたのは 66.50%だけでした。合計 98%の教師がラファエック・マガジンを授業に活用していると答え、97%がラファエック・マガジンが教育実践の改善に役立っていると回答しました。さらに、93.50%の教師が、ラファエック・マガジンに掲載されている関連コンテンツの中から、授業運営に役立つ例を 1 つ以上挙げることができました。

モニタリングの一環として、76 の授業参観が実施され、教師の指導法、クラスマネージメント、子ども中心の教育実践、生徒の参加、教材へのアクセス、ジェンダーに配慮した実践、生徒を管理するための身体的・言語的手段の使用、試験などが視察されました。授業参観では、板書を写す、読み聞かせをする、生徒を教室の活動に参加させないなど、非効率的で伝統的な指導方法が授業中に行われていないかどうか視察しました。さらに、教師が女子生徒や男子生徒に対して、励ましたり、質問したり、怒ったような口調で接したり、体罰を加えたりしていないかを評価するため、女子生徒や男子生徒に対する教師の行動も観察しました。授業視察では、教師が生徒の行動を管理し、教室内での生徒の集中力と積極的な参加を維持するために、より能動的な学習方法を適用しているかどうか視察しました。視察から得られた知見は、今後、教師向けの包括的なコンテンツを開発する際の参考資料として活用される予定です。

「ラファエック・コミュニティ」のモニタリング結果

報告期間中、MEAL チームは、Oecusse (Ambeno) の特別地域を含む 13 の市町村へ 200 回以上の現地訪問を行い、毎学期にコミュニティ誌を受け取るコミュニティ・メンバーから意見やフィードバックを集めることに成功しました。

全国で合計 229 人の地域住民と家庭レベルでのインタビューが行われ、インタビュー対象者のほとんどは遠隔地に住んでいました。インタビューを受けた親のほとんどは女性でした（229 人中 166 人、72%）。これは、男性世帯員が昼間は仕事や生計の都合で不在であることが多いためと考えられます。

モニタリングの結果、83.84%のインタビュー対象者がコミュニティ誌を受け取っていました。また、83.41%の人が「年 3 回受け取っている」と回答しているが、コミュニティ誌を提示できる人は 24.89%だけでした。一方、83.84%の回答者は、家庭で子どもに雑誌を使って教えたり、一緒にゲームしたりすると答えました。配偶者が雑誌を読んでいると答えた人は 46.29%でした。さらに、回答者の 90.83%が子どもが学校に通っていると答え、89.96%が子どもも家で雑誌を読んでいると答えました。

ラファエックのスポンサー契約

様々な開発パートナーとのパートナーシップ構築も行われました。今年度には、外部の契約見込みのあるスポンサーや民間企業との数多くのコンタクトが確立されました。Mercy Corps、TAF、CRS、Rede Feto Timor-Leste、Grameen Foundation、Family Welfare Association および FHK Group（民間企業）を含む 7 つのパートナーと、スポンサー契約を締結することができました。チームは、近い未来、公共、民間、非営利セクターからより多くのスポンサーシップを獲得できるよう、マーケティング手法の改善に取り組んでいます。

報告年度中、LLM プロジェクトは、特別版の開発、ビデオ制作サービス、ラファエック・マガジンおよび Facebook ページへのスポンサー・コンテンツの掲載を通じて、総額 278,916.60 ドルのスポンサーシップを獲得しました。

オンライン・プラットフォーム

今年度、ラファエックは、ラファエックのウェブサイト、YouTube、ラファエックの Facebook ページを通じて、オンラインでの存在感を高め続けてきました。ラファエックのソーシャル・メディア・プラットフォームのコンテンツは、若者の能力向上、職探し、社会問題への対応、前向きで模範的なロールモデルの促進、信頼できる情報源としての役割をサポートすることを目的としています。これらのプラットフォームのターゲットは、インターネットにアクセスできる 14 歳から 35 歳までの若者と若い親たちです。情報は、魅力的で魅力的な短いビデオ、写真、インタビューの形で提供されています。Facebook のコンテンツは短く、シャープで最新のものだが、ラファエックのウェブサイトと YouTube のコンテンツはかなり長く、ラファエック・マガジンのメッセージを強化する詳細な内容で、ラファエック・マガジンを家庭で受け取らない都市部の家族をターゲットにしています。この報告年度末の現在、ラファエックの facebook ページのフォロワーは 16 万 9000 人を超え、東ティモールで最もフォロワーの多い Facebook ページとなりました。報告期間中、ラファエックの Youtube には 391 人の新規登録者があり、19,700 回の新規視聴がありました。

Facebook ページで人気のあるコンテンツの例には、以下のようなものがあります：

2023 年 1 月のパンケーキの作り方に関する投稿には、119,300 人以上がリーチし、1,500 のエンゲージメントを獲得しました。

<https://www.facebook.com/RevistaLafaek/posts/pfbid0qZw2peBwcWDpHf2nAz9AezDUGELrKHXPpG2pqb1oL4f7FdWfPuCPHRj5xWdMBw3QI>

2023 年 5 月 20 日、東ティモールの独立回復記念日を祝して、ラファエックチームは、Aileu 出身の女子ジョアナを起用したビデオを投稿し、彼女がどのように社会に貢献したか、また東ティモールの若者がどのように社会や国の未来に貢献すべきかについて、彼女の経験を共有しました。この投稿は 227,100 人に届き、10,000 人以上の人々を魅了しました。

<https://www.facebook.com/RevistaLafaek/posts/pfbid02VFmkDoa16LMroQ361nYJiigKXWXnbfYNu4FHtBdQLuezTzSneMKZkyjFXZnvzpWPI>

2023 年 9 月、Aileu の観光地を宣伝する写真投稿は 107,400 人以上に届きました。

<https://www.facebook.com/RevistaLafaek/posts/pfbid02rauS4rr5W8VtSHqoMnwoUccANhB9hXZxLUnrGmCyERsQVgTKrcDPHy2fstYp4mJPI>

2023 年 11 月、Oeccuse の美しい風景の写真は 83,000 人以上に届きました。

<https://www.facebook.com/RevistaLafaek/posts/pfbid02neyz9tiRzco8zz24zuw2WNPdFcLMi2c4QPGgosjSarWkufTEc4i8e2pPRs1ygTgwI>

2023 年 4 月に投稿された日食に関するラファエックの Facebook ライブは、72,500 人以上に届きました。<https://www.facebook.com/watch/?v=1293504208045333>

オンライン・プラットフォームは、ラファエックの長期的な持続性を確保するための、スポンサー契約がもたらす継続した資金を生み出すサポートしています。今年度、ラファエックの Facebook ページにおけるコンテンツ・スポンサー契約によって生み出された総額は 1,000 ドルでした。このような減額となった理由としては、このプロジェクトが facebook の投稿をラファエック・マガジンのスポンサーシップの追加として利用し、通常は無料のスポンサーに提供することで、私たちの価値提案を向上させ、より多くのスポンサーを集めるためでした。

政府と市民社会組織の関与

国の利害関係者、自治体当局、関連部局、市民社会組織との関わりは、東ティモールにおける LLM プロジェクトの活動の不可欠な部分です。こうした関与の取り組みは、国や自治体の政府機関、開発パートナー、民間セクター、市民社会組織内のさまざまなセクターにわたるパートナーシップを改善・強化することを目的としたアドボカシー活動の一環です。LLM プロジェクトは、東ティモールの対象となる受益者のニーズに取り組むため、国、地域、コミュニティ・レベルのすべてのパートナーとの共同作業を続けています。

教育省（MoE）の役割が変わったにもかかわらず、ラファエックと MoE は依然として強い関係にあります。ラファエックのアドバイザー・ボード・ミーティングにおける教育省の技術チームの貢献は、3 つの版すべてにおいて非常に重要であり、雑誌の内容の質を向上させました。

教師用特別版の開発に関して、ラファエック・チームは、カリキュラム・コーディネーターやテクニカル・チームを含むナショナル・カリキュラム部門と密接に協力し、内容開発から最終承認段階までのプロセス全体をサポートしました。また、ラファエックチームは、特別版に対するナショナル・カリキュラム・コーディネーターの承認を得るために、直面した課題を克服するために懸命に努力しました。

プロジェクトはまた、教育省部署とも密接に協力し、教師用雑誌を利用する教師向けに大臣からのメッセージを四半期ごとに提供しました。これらのメッセージは、生徒と教師が学習プロセスを発展させるために、教育省や関連する教育開発パートナーから提供された雑誌と学習リソースを活用し、読むことを奨励するためです。

教育省とのパートナーシップを通じて、ラファエック・シニアチームは、東ティモール政府、教育開発パートナー、教育セクターの市民社会組織間の対話と調整のプラットフォームとして機能する ACETL（東ティモールの教育のための共同行動）フォーラムに定期的に参加しました。このフォーラムは、東ティモールの教育の質を向上させるため、パートナー間のプログラム活動のより良い調整のために、進捗状況、課題、今後の進め方について話し合うための国内対話や継続的な技術会議を行う場となっています。ACETL 会議はまた、パートナーによって支援される教育プログラムや活動が、東ティモール政府の教育セクターにおける優先事項と整合していることを確認するための重要なプラットフォームとしての役割も果たしています。

報告期間中、ラファエック・ラーニングメディア・チームは、東ティモール共和国大統領府の招待を受け、「教育・文化博覧会」をメインテーマとする Falintil-FDTL48 周年記念日に参加しました。例年通り、マーケティング・コミュニケーションチームを代表とするラファエックチームは、ラファエックの雑誌を展示し、雑誌の読み聞かせ、お絵描き大会、子どもたちとの歌の披露、その他の参加型セッションを通じて、イベントに参加した学生、若者、地域住民の参加を促しました。これらの活動は Bobonaro 自治体の Odelgomo 村で行われました。このイベントには、プラン・インターナショナル、Xanana Gusmao 読書室、Marry Mackillop Today、CARE/ラファエックチーム、G7+、HANDS プログラム、国立レジスタンス博物館、MoE、東ティモール大統領府（東ティモール共和国 Dr. Jose M. Ramos Horta 大統領、Sra. Dulce Soares de Jesus 教育大臣を含む）、その他関係者が参加しました。



図 SEQ Figure 1* ARABIC 1.2023 年10 月、Laclubar Manatuto の EBF1.2Batara 校を表敬訪問する東ティモール共和国大統領

報告期間中、東ティモール共和国 Dr. Jose Manuel Ramos Horta 大統領が Manatuto 市 Laclubar にある EBF1.2 Batara 学校を表敬訪問されました。大統領はこの機会に、教室で5年生の生徒たちに「ラファエック・プリマ」の雑誌を配布しました。生徒たちは大統領から直接雑誌を受け取り、大喜びでした。大統領から生徒へのメッセージの一部を紹介します：「**将来、知性を身につけ、成功したいのであれば、教育省や私たちの仲間の開発パートナーが提供する学習教材を読んでください**」

ラファエックプロジェクトは、保健省、特に健康促進局と提携しています。この協力関係は LLM プロジェクト、特に保健分野に関連するコンテンツの品質管理にプラスの影響を与えています。相互協定によると、健康促進部はラファエック・マガジンの健康に関するコンテンツの見直しと改訂を支援しています。その見返りとして、ラファエックはすべての出版物に健康促進部の重要なメッセージの一部を掲載しています。

「ラファエック・キーク」とヤング・ジャーナリスト・イニシアチブを通じ、LLM プロジェクトは、主要な政府関係者や市民社会パートナーにインタビューを行い、リーダーシップや意思決定における彼らの経験を共有し、学生たちが将来の目標や個人的な願望を思い描けるよう、彼らを鼓舞するロールモデルとなりました。これらのインタビューは国営テレビで放送され、その成果はラファエック・マガジンに掲載されます。

今年インタビューを受けた主な関係者は以下の通りです：

1. Natercia Eufrazia Martins, Dili 市 PNTL 司令官、「あらゆるレベルにおける意思決定とリーダーシップへの女性の参加への焦点」、2023 年 5 月 2 日
<https://www.youtube.com/watch?v=jwqP6ncPbyE>
2. Mr. Virigilio Guterres, Ombudsman 人権・司法、「ジェンダーに基づく暴力防止のための男性の関与」、2023 年 4 月 25 日
https://www.youtube.com/live/NhdVEq_iLPE?si=A4095ymQZWkjFc3g
3. Mrs. Elvina Souza Carvalho 平等担当国務大臣、2023 年 9 月 4 日
<https://www.youtube.com/watch?v=WN95yhl9i2M>
4. Isabel Fernandes de Lima (INDIMO 理事)、「女性リーダーシップの優先順位付け」、2023 年 9 月 15 日 <https://www.youtube.com/watch?v=thrs5pP-Q9U>
5. Ms. Fernanda Lay 国会議長に就任、2023 年 11 月 24 日
<https://www.youtube.com/watch?v=OWogqMjatrQ>
6. Ms. Dulce de Jesus Soares 教育大臣、2023 年 12 月 1 日
<https://www.youtube.com/watch?v=-pSEcJzTYic>



図 SEQ Figure 1* ARABIC 2: Viqueque 市当局、教育、保健、農業、統計局長、技術スタッフ、ラファエック上級代表による市レベルの会議

さらに、ラファエック・ラーニング・メディア・プロジェクトは、政府と開発パートナーとの情報交換の機会として、自治体当局とも関わりました。東ティモール大統領府は、各自治体で活動する市民社会組織や開発パートナーとの会合を企画し、LLM プロジェクトの上級代表は、Aileu、Ainaro、Covalima、Atauro、Manatuo と Lautem の各自治体で開催されたこれらのイベントに出席しました。

コミュニティ・エンゲージメント



図 SEQ Figure 1* ARABIC 3: 2023 年 8 月、Suco Hoholeta でトマトソース作りを練習する地域住民と国家地域警察司令官 Sr Antonio da Luz

コミュニティ・ダイアログ・イベントは、より深く頻繁なコミュニティの関与を確立するためのものです。この活動は、13 の市町村の 1 つずつにある選ばれた村落で企画・実施され、コミュニティ誌の内容に関するコミュニティの意見を聞き、議論し、コミュニティが雑誌のメッセージから得られる利益を最大限に生かし、日常生活に応用する方法について合意するものです。コミュニティ・マガジンに掲載された内容の中には、TAF のようなコミュニティ・ポリスに関するものや、一般市民が遵守すべき警察の交通標識など、開発パートナーから提供されたものもありました。さらに、東ティモールの Rede Feto が提供した家庭でのジェンダー役割分担とどのようにしてお互いをサポートするのかといったコンテンツも掲載されました。



図 SEQ Figure 1* ARABIC 5: 2023 年 8 月、アイレウの CD に参加した Suco 当局、コミュニティ、国家コミュニティ警察司令官、ラファエックチーム

TAF のプログラムと LLM プロジェクトのコラボレーションにより、2023 年 8 月下旬に、国家コミュニティ警察司令官の Mr. Antonio da Luz を招き、Aileu 自治体ホホレテ村の家庭へのコンテンツ普及を支援しました。同司令官のプレゼンテーションは簡潔で素晴らしいもので

した。司令官とそのチームが直接質問を受けたり、明確な説明を行ったりしたことで、地元の指導者とそのコミュニティの参加者を惹きつけました。同様のプロセスは 2023 年 11 月にもあり、

Manatuto と Baucau のコミュニティ対話に
国家警察の Mr. Luis da Cost 交通司令官が
招かれ、規律や道路交通標識、公道を利用す
る際にすべきこと、すべきでないことに関す
る情報を共有しました。その目的は、地域社
会の意識を高め、将来の事故リスクを最小限
に抑えることでした。



地域対話イベントの中で実施されたその他の
活動は、2023 の第 2 版と第 3 版に収録され
ている「ラファエック・コミュニティ」のコ
ンテンツを使ったデモンストレーション・セ
ッションです。

図 SEQ Figure 1* ARABIC 4:2023 年 8 月、Aileu でのコミュニ
ティ対話のフォトセッションに参加したコミュニティメンバー、
地元リーダー、LLM プロジェクトチーム、国家コミュニティ警
察司令官。

国や自治体の警察司令官とのセッションとは別に、自治体の農業、保健、教育の責任者やその代理人
も活動に参加し、内容を社会化し、地域住民や LLM チーム、その他のパートナーから出された質問に
対して明確な説明を行いました。

LLM チームはまた、トマトソースの製造工程や、古着から子ども用ランドセルを作る方法などの実演
も行いました。地元のリーダーやコミュニティの人々は、これらの活動にとっても興味を持ち、熱心
に取り組んでいました。参加者は男女を問わず、セッションを通して積極的に参加し、参加者全員にと
って非常に協力的な学習環境となりました。

今年度は、各市町村で 1 回、アタウロで 1 回、合計 14 回のコミュニティ・ダイアログが実施されま
した。これらのセッションには、男性 290 人、女性 287 人が参加しました。プロジェクト・チームが
プロジェクト活動への女性の参加を増やす努力をしてきたにもかかわらず、これらのコミュニティ・
ダイアログへの女性の平等な参加を確保することは困難でした。しかし、LLM チームは今年度、地元
指導者と緊密に協力し、コミュニティ・レベルでプロジェクト活動への女性の参加の重要性に対する
指導者の意識を高め、実証的なアプローチの利用を増やすことによって、一定の前進を遂げました。
プロジェクトチームはまた、CARE のプログラム品質チームと緊密に協力し、女性や特別な特別なサ
ポートが必要な人々の参加を増やす方法を検討しました。CARE の「社会的説明責任と行動」の手法
は、コミュニティのメンバーが、男女間の不公平な家事分担、重要な意思決定プロセスからの女性の
排除、家庭外活動への女性の参加を促進する方法など、伝統的な有害な社会規範を反省し、異議を唱
えるのを助けるために、すべてのコミュニティ対話で導入されています。今後、プロジェクト・チーム
は、女性が会場にアクセスしやすいように、コミュニティ・ダイアログの開催場所などの要素も検討
していきます。このプロセスは、コミュニティのメンバーや地元のリーダーと相談しながら実施され
ます。セッションを通して、プロジェクト・チームは参加者、特に女性と女子のフィードバックを記

録し、話し合いました。そのフィードバックは制作チームと共有され、次回以降の内容改善に役立てられます。

ラファエック財団

LLM プロジェクトは、現地で登録された財団という社会事業に移行しつつあります。財団の使命は、対象コミュニティの識字率、計算能力、男女平等、社会的包摂、経済的幸福を促進することにより、東ティモールの社会変革のためのメディアとコミュニケーションのリーダーとなることです。独立した財団は、ハイブリッドな資金調達モデルのもとで運営されます。このモデルでは、組織的なドナーからの資金を、財団がスポンサーシップなどから調達する資金で大幅に補う形です。ラファエック・ブランドの知名度と、行動変容コミュニケーション（BCC）教材のデザイン・開発におけるチームの専門知識を基盤に、財団はスポンサーシップ、広告、コンサルタント・サービスを通じて、公共、民間、開発パートナーに協力の機会を提供しています。

ラファエックを東ティモールの財団として登録する手続きは進行中です。理事会や監査・リスク委員会などのガバナンス機関の ToR とともに、すべての法的な規約や決議文書が最終段階にあります。また、ラファエック財団の新しい構造も、財団のニーズに合わせて開発されました。法務省の登録は 2024 年末までに完了する予定です。このプロセスをスピードアップするため、CITL はラファエック移行計画の最終決定に従って、LLM プロジェクトから財団への移行を支援するため、CITL の上層経営陣とラファエックチームのシニアメンバーで構成されるラファエック移行タスクフォースを設立しました。

ラファエックの事業計画の改訂は、2023 年の最初の 2 四半期に実施されたため、CARE と重要なパートナー（特に MFAT）内で広く周知されました。完成させる必要のある主要要素は、財務モデリングと分析です。この分析には、提案された各製品の財務データと予測、財団の持続可能性に関する洞察が含まれます。さらに、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書も作成され、修正事業計画に添付されます。財務モデリングと分析の下書きは、2024 年 4 月末までに MFAT に提出されます。

ラファエック移行計画の下、CARE は今後の 3 年間で、財務管理、調達、人事、運営・管理、安全、セキュリティサービスなどの重要な分野を、プログラム支援ユニット部門からラファエックチームに徐々に移行していきます。これを達成するために、両当事者は、合意された時間枠に沿って、異なる機能の移行を主導する責任を負う主要スタッフを任命しました。

スポンサーシップ・イニシアチブを通じ、今年度中に生み出された総額は 278,916.60 ドルです。この金額は主に、ラファエック・コミュニティ誌、その他 3 誌の教育誌、特別版、オンライン・プラットフォームに掲載されたスポンサーからのものです。これらのスポンサーシップは、HATUTAN（米国農務省出資）や CoHSIS プロジェクト（世界銀行出資）といった CARE 内部のプロジェクトや、Rede Feto Timor-Leste、Mercy Corps（世界魚プログラム、Tasinini リサイクル、災害リスク軽減プログラム）、FHK グループ（民間企業）といった外部のパートナーを含む、多くから確保されました。ラファエック Facebook のスポンサーシップからは、合計 1,000 米ドルが得られました。これは少額ではありますが、ラファエックチームは Facebook ページがもたらす今後の機会に期待しています。

2016 年にスポンサーシップ・イニシアチブを開始して以来、LLM プロジェクトは総額 2,278,327.53 ドルの持続可能性資金を調達しました。これらの資金の一部は、重要なコミュニケーション・マーケティング・チームの資金として使用されたことは特筆に値します。

LLM プロジェクトと Mercy Corps は、自然災害への対処、リスク軽減、東ティモールの海洋保護に関する生徒の意識を強化するため、災害リスク軽減と海洋保護に関する特別版を作成しました。この 2 冊は印刷され、2023 年 9 月から 11 月の配布サイクルの間に、全国 1,173 の小学校の 3 年生から 6 年生までの生徒に配布されました。

全国メディア報道

報告年度中、LLM プロジェクトは、「ジャーナリスト・キック」イニシアチブを通じて、ラファエックのブランド化と知名度向上のための努力を強化しました。実際に主要な政府高官、市民社会組織のロールモデル、その他の国の著名人へのインタビューが数回行われました。

例えば、プロジェクトは国会議長にインタビューに行いました。これらのインタビューのテーマは、女性のリーダーシップ、社会のあらゆるレベルにおける意思決定の役割、ジェンダーに基づく暴力防止への男性の関与、女性と女子に対する暴力ゼロの 16 日間キャンペーンのお祝いに焦点を当てています。

これらのインタビューのハイライトは、ラファエックの Facebook ページや、ラファエック・プリマ誌、ラファエック・コミュニティ誌など、さまざまなラファエック誌にも掲載されました。

以下は、本報告年度中にインタビューを行った主要人物です：

表 1：2023 年度ジャーナリスト・キック取材リスト

No.	ロールモデル／ 公人	役職／所属機関	主なテーマ	雑誌の種類
1	Mrs. Natercia E. Soares Martins	ディリ警察司令官／PNTL	女性のリーダーシップと意思決定	LP 版 3/2023
2	Mrs. Isabel F. de Lima	ナショナル・ディレクター／INDMO		LP 版 1/2024
3	Mrs. Dulce de Jesus Soares	教育大臣／MoE	MoE としての女性のリーダーシップと意思決定の役割	LP ed.2/2024
4	Mr. Virgilio Guterres	オンブズマンのチーフ／PDHJ チーフ	ジェンダーに基づく暴力防止の	LBK ed.3/2023

		フ	男性と少年の参加	
5	Mrs. Elvina Sousa Carvalho	平等担当国務長官 ／SEI	男女共同参画推進に関する憲 法 9 条の政府計画の実施	LBK 編 1/2024
6	Mrs. Fernanda Maria Lay	国会議長 /PN	男女平等と社会的包摂を 促進するための法律、 政策、プログラム、 国家予算を確保	LBK ed.2/2024

学校地図

下の地図は、現地実施チームがラファエック誌を配布するために訪問した 1,645 の公立・私立学校の位置を示しています。この地図には、ユニセフがエルメラとビケケで運営している 103 の地域密着型幼稚園は示されていません。これは、この 2 つの自治体で配布を担当している地元のパートナー（アローラ財団）が GPS コーディネーターを記録していなかったか、配布期間中に GPS コーディネーターを集めて記録するシステムが整っていなかったためです。

<https://www.google.com/maps/@-8.8027969,124.7342833,8z/data=!4m2!6m1!1s1cbiTukJqaOnCNk9IJCMXqnFhxGBUg-Q!5m1!1e1?authuser=0&entry=ttu>



図 6:LLM プロジェクトによる東ティモール全土の学校地図（2023 年度）

分野横断的課題

セーフガード、ジェンダー平等、児童保護

ジェンダー平等とインクルーシブ教育は、LLM プロジェクトのすべての活動の中心となっています。また、プロジェクトは雑誌の内容に CARE のジェンダー平等フレームワークを組み込んでいます。フレームワークの主要な構成要素（すなわち、主体性、関係性、構造）は、ラファエックの雑誌、コミュニティ対話、オンラインプラットフォームを含むプロジェクトのすべてのレベルの活動やアプローチを改善するために使用されています。

例えば、ラファエック・プリマ誌とコミュニティ誌の内容は、一貫して女性のリーダーシップと意思決定を促進しています。一方、LLM プロジェクトでは、ヤング・ジャーナリスト・イベントを通じて女性や少女の役割を継続的に促進し、自尊心、自信、人前で話す能力を高めると同時に、彼ら・彼女らは他の子どもたちや青少年の模範となっています。この雑誌は、ジェンダーに基づく暴力の防止に関する GoTL やパートナーからの重要なメッセージをコミュニティに伝え、関連するサービス・プロバイダーと結びつける手段として役立っています。プロジェクトでは、SAA のツールをコミュニティでの対話に組み込んでいます。対応可能なフィードバック・メカニズムに関連して、プロジェクトには、4つの雑誌すべてにホットライン番号が設けられています。コミュニティ・イベントの際には、意見を集めるための投書箱が利用されています。プロジェクトでは、すべてのレベルにおいて、男女別、障がい別に集計されたデータの収集に努めています。MEAL チームは、授業参観、FGD、KII を利用してプロジェクト・モニタリング・データを収集しています。最新のプロジェクト・リスク・マトリックスと軽減計画が実施され、定期的に見直されています。

プロジェクト・チームは、プロジェクト内部のジェンダー・フォーカルポイントと緊密に協力し、GPQ ジェンダー・スペシャリストの支援を受けながら、全体的な内容が CARE のプログラム品質最低基準であるジェンダー&インクルージョンに沿ったものであることを確認するため、内部レビューの際にフィードバックを提供し続けています。ジェンダーの質は、男性や男子の参加なしには達成できないことはよく理解されています。報告期間中、教育省はジェンダーと包括部門を通じて、パートナーシップと協力の DG によって主導された教育のジェンダー作業部会を、関連する開発パートナーとともに組織しました。これには、CARE とラファエックのジェンダー代表が参加しました。このグループは 3 か月に 1 度会合を開き、ジェンダー平等、子どもの保護、社会的包摂のための政策とガイドラインを議論し、策定し、政府の教育部門の優先事項に統合するための調和を図っています。最終決定後、これらのガイドラインは公立小学校のすべてで実施される予定です。

「ジャーナリスト・キーク」のイニシアチブを通じて、プロジェクトは PDHJ の最高監督者である Virgilio Guterres 氏とのインタビューを企画し、ジェンダーに基づく暴力防止に男性と少年を参加させることについて話しました。このインタビューの要約は、ラファエック・コミュニティ・マガジンに掲載され、同国の遠隔地に住む人々の意識を特に高めることになりました。



図 SEQ Figure 1* ARABIC 7: 東ティモールPDHJ Ombudsman 主任 Mr. Virgilio Guterres へのインタビュー。25 April 2023



図 SEQ Figure 1* ARABIC 8: 2023 年 9 月 4 日、平等担当国務長官にインタビューするヤング・ジャーナリストの Elizita と Agapito。

ラファエック・マガジンとソーシャル・メディア・プラットフォームは、CARE 東ティモール事務所の保護、説明責任、ホットライン番号を含む報告メカニズムに関連するメッセージを公表するチャネルとして利用されてきています。ラファエック・マガジンが全国に広がり、フィールドスタッフが生徒、教師、コミュニティ、青少年と一貫して接触していることを考慮すると、適切な報告メカニズムとシステムは優先事項です。報告の仕組みは、ドナー、政府機関、パートナー、受益者（特に、この国で最も恵まれない地域の弱い立場にある女性や少女）や主要なステークホルダーから寄せられた意見や勧告を記録し、対応し、それに基づいて行動するように設計されています。過去にはラファエック教師用マガジンの数学的内容の誤りについて、教師から具体的なフィードバックが寄せられ、プロジェクト・チームは直ちに対応し、その一環として次号に掲載する内容を調整しました。

障がいのある学生や生活者は、学校や社会から排除されることが多いです。多くの親は、学校や地域社会全体が障がい者を受け入れないことを恐れ、障がいのある子どもを学校に通わせません。しかし、「ジェンダー平等とインクルージョン」に関する CARE プログラムの品質基準に従い、特に障がい者のエンパワーメントを促進する戦略に関連して、ラファエックプロジェクトは、障がいを持つ学生や人々の自信構築を支援する義務があります。そのために、彼ら・彼女らを選んで主要な政府指導者や市民社会代表とのインタビューに参加させています。

この報告期間中、Dili 市の Sao Joao Carlos と Fomentu 2 の小学校から Messias Ruas Barreto と Anca Siguira が選ばれ、Dili 市の警察司令官である Mrs. Natercia Eufrazia Soares Martins に女性のリーダーシップと意思決定についてインタビューしました。その内容は「ラファエック・プリマ」誌に掲載され、また国営テレビでも放映されました。さらに、LLM プロジェクトは、障がいを持つ若い大学生である Elizita Soreas (Raes Hadomi Timor-Oan : RHTO) と Agapito Da Cunha に、平等担当国務秘書である Mrs. Etelvina Souza Carvalho とのインタビューの機会を提供しました。テーマは、東ティモール憲法 9 条政府のあらゆるレベルにおける男女平等の推進についてでした。このインタビューは前向きなメッセージを提供し、障がいのある子どもを学校に通わせるよう親たちを勇気づけました。このインタビューでは、若いインタビュアーが人前で話す際の自信、ビジョン、スキル、能力、経験を磨き、学校や社会から受け入れられないのではないかという不安を打ち消すのに役立ちました。

ラファエックのインパクト

創刊から 22 年を経た今も、ラファエック誌の学校や家庭での存在は、東ティモールの教育事情に深く関わっています。教育の成果や男女平等の向上、社会的結束、家族の幸福、アドボカシー、ラファエックの持続可能性への支援に大きく貢献しています。

教育的な成果については、ほぼすべての教師と生徒が教室でラファエック・マガジンを使用し、78% が家庭でも読んでいることが分かっています。さらに、生徒の読み書きの成績は、ラファエックを読んだこと、あるいは雑誌から単語やゲーム、ストーリーを思い出せることと関係があることが分かっています。中間評価に参加したほぼすべての教師が、ラファエックは教師が利用できる最も重要なツールのひとつに挙げています。家族の幸福に関連して、ラファエック・マガジンは、健康、栄養、衛生、経済的な成果など、さまざまな形で世帯が互いに学び、関わる機会を提供している事もあげられています。最も重要な点は、ラファエックのおかげで親子が一緒にいられることです。

関連性

東ティモール教育省は、2001 年の発足以来現在に至るまで、私たちの長年のパートナーです。過去 22 年間以上にわたり、そしてこれからも、プロジェクトはラファエック・マガジンを東ティモール政府の 2011 年から 2030 年までの優先事項、および CARE 東ティモールの長期プログラムと一致させるための非常に貴重な戦略的および技術的支援を受けてきました。今後、ラファエック・チームは、ラファエック財団の将来的な持続可能性を支援できるよう、政府内のさまざまなライン省庁、他の市民社会組織を含むこれまでアプローチされることのなかった開発パートナー、民間セクターのアクターとのパートナーシップを進めていきます。

プロジェクトは、教育省の主要な技術パートナーとの協力をさらに強化し、内容のレビューとフィードバックを行う外部諮問委員会の効果をサポートします。これにより、コンテンツが国家カリキュラムと一致し、品質が確保され、学校へ印刷と配布の前に最終承認が行われます。



図 SEQ Figure 1* ARABIC 10:2022 年 9 月発行の 1/2023 号に向けて、Dili 市のラファエック事務所で雑誌の内容を検討する外部諮問委員会の会議が進行中。

ラファエックのコミュニティ・マガジンは、東ティモールで最も恵まれない、弱い立場にあるコミュニティのニーズに対応するための情報を提供する上で、重要な役割を果たす重要な資料です。この雑誌の主要なメッセージは、教育、育児、健康、衛生、栄養、農業、マイクロビジネス、男女平等、女性の経済的エンパワーメント、女性の発言力などに焦点を当てています。その他、男女平等、児童保護、セクシャル・ハラスメント、搾取、虐待の防止なども重要な課題として取り上げられています。ラファエックのコミ

ュニティ・マガジンは、東ティモール政府と MFAT の開発優先事項とも密接に連携しています。

効率性

国、市町村、行政、そして学校レベルに至るまで、教育省との効果的な協力関係により、プロジェクトは全国 1,645 校の就学前・小学校すべてに雑誌を届けることができました。農村部や遠隔地にある学校も多く、雨季にはアクセスが困難になるにもかかわらず、チームは限られたリソースの中で、手の届きにくい地域にタイムリーにアクセスするために懸命に働きました。

反省と学習のため、プロジェクトは 2023 年 12 月 11 日から 13 日の 2 日間、オフサイトで年次反省会とチームビルディング・イベントを実施しました。このセッションでチームは、うまく実施できたことと今後改善すべきことを振り返りました。このイベントのもうひとつの重要な焦点は、移行プロセスとプロジェクト全体への影響について話し合うことでした。

このプロジェクトが報告年度中に年間予算の 100% を使用できたことは注目に値します。

持続可能性

過去 22 年間にわたり、ラファエックの雑誌は生徒、教師、そして東ティモールの広範なコミュニティの生活に定着してきました。学習成果の向上、情報の普及、共通のアイデンティティの形成に貢献するラファエックの雑誌は、東ティモール全土に広がっており、その重要性から、CARE は財政的にも運営面でもプロジェクトの持続可能性を最大化するために多額の投資を行ってきました。

今年度の時点で、プロジェクトはラファエックの持続可能性を支える資金を調達するため、社内外の主要パートナー数社との協力を成功しました。今年度、プロジェクトが確保した資金総額は **278,916.60 ドル** でした。この金額は以下のようなパートナーシップによって生み出されました：

表 2：2023 年度のスポンサー・コンテンツおよび商品のリスト

パートナー/プロジェクト	フォーカスエリア	# ページ数／特別版	# エディション数
Mercy Corps	プラスチック汚染削減のための課外授業シラバス	スペシャル・エディション	1 版のみ
Mercy Corps	災害リスク軽減モジュール	スペシャル・エディション	1 版のみ
アジア財団	12 種類の健康・栄養資料	特別版	1 版のみ
アジア財団	地域警察サービス	LBK の 1 ページ	1 版のみ
アジア財団	公道利用の規律を促進する	LBK の 1 ページ	1 版のみ

Rede Feto 東ティモール	男女共同参画推進	LBK の半ページ	3 つのエディション
家族福祉協会	生徒と保護者に対するジェンダー感受性の向上	トレーニング・サービスの提供	6 ヶ月
HATUTAN プロジェクト	テトゥン語のリテラシーや数学を促進し、学校を楽しみながら、健全な家庭環境で子どもたちの自宅学習を支援	各生徒・教師用雑誌に 1 ページ、LBK に 2 ページ掲載	3 つのエディション
COHSIS プロジェクト	COVID-19、マラリア、デング熱の予防メッセージの推進	生徒と教師に各 1 冊、LBK 誌	3 つのエディション
FHK グループ	セメント CONCH の推進	ラファエックの Facebook ページ	4 分の 1

ラファエックの持続可能性を支援するため、CARE 東ティモール事務所とプロジェクト・チームは、ラファエックの現地登録財団への移行を成功させるための重要なステップを踏んでいます。包括的な移行計画が策定されました。ラファエック移行タスクフォースは、承認された計画に従って移行プロセスをリードするために設立されました。

戦略的・経営的課題

2023 年初頭に、教師向け特別版の最初の版のコンテンツ開発プロセスが完了しましたが、技術カリキュラム代表者と国家カリキュラムコーディネーターによる修正と承認プロセスは時間がかかり、困難でした。課題解決に精力的に取り組んだ結果、ラファエック・チームはナショナル・カリキュラム・コーディネーターの承認を取り付けました。印刷と配布は 2023 年 5 月から 7 月にかけて完了しました。

雑誌を海外で印刷することは、一部のスポンサーが要求する納期に関してプロジェクトに新たな課題を課すことになります。プロジェクト・チームは、このようなニーズに応えるため、インドネシアのような場所での代替印刷オプションを模索しています。話し合いは現在進行中ですが、CARE インドネシアの支援により、解決策が見つかると思っています。また、ラファエック・チームは教育省の印刷所に再アプローチし、教育省および KOICA の新しい指導者とさらなる印刷協力について話し合う予定です。

ラファエックの将来に対する文部省の継続的な支援の観点から、ラファエック・シニアチームは、Mr. Nick Borthwick（開発担当一等書記官兼ミッション副代表）と Jenn Barrot（開発プログラム・コード

ィネーター)の支援のもと、Mr. Joao Mau-Pelo (MoE のカリキュラム・コーディネーター)と面会し、ラファエックの雑誌に対する財政支援の選択肢について話し合い、検討しました。その結果、このイニシアチブをさらに検討するために、教育大臣と相談すべきであるという結論に達しました。

東ティモール政府は 2023 年 5 月に国会議員選挙を実施しました。勝利した連立政権は新政権を樹立し、その結果、東ティモール政府教育省を含む全省庁の全レベルで大幅な改革が行われました。前教育大臣の Mrs. Dulce de Jesus Soares が再び教育省を率いることになりました。彼女はラファエックと長い付き合いがあります。MoE の新しい上級指導者のほとんどは新しく任命されました。チームは、プロジェクトとその活動が MoE の国家的優先事項や目標にどのように貢献しているかを改めて紹介するために、さらなる時間と労力を割かなければなりませんでした。プロジェクトは、長年にわたって築き上げてきたラファエックと MoE との強固な関係によって、こうした難局を乗り越えることに成功しました。

すべての主要部門で高位のポジションが完全に再編されたため、正確なプロセスが市レベルでも複製されました。

次報告期間の優先事項

- 法務省でラファエック財団の登録手続きを完了
- 2024 年度の教師向け特別号を含む 3 種類のラファエック誌の制作、印刷、発送、配布を完了
- 13 のコミュニティ・ダイアログを企画・実施
- ラファエックの地方財団への移行を促進するため、ラファエック移行計画の実施を継続
- 政府、開発、市民社会組織、民間セクターの連携を強化し、さらなる協力とスポンサーシップの機会を得る
- ラファエックの新製品、特にグローバル／リージョナル市場向けの子供向け電子書籍のアイデアを固めることに力を入れる
- 初期市場分析の策定を開始し、未資金化製品の実現可能性を理解するために、地域およびグローバル学校とのパートナーシップ、ラファエックの絵画と塗り絵の本、ラファエックの速報、ラファエックのインフルエンサーなどを調査
- ラファエックの持続可能性を高めるため、新たなパートナーや顧客を対象とした集中的なマーケティング活動を通じて、ラファエックのマーケティング・営業活動を強化
- 在東ティモール・ニュージーランド大使館の支援を受けて、MoE との協力を継続し、「教師特集」または「教師雑誌」の財源を確保
- 2024 年 3 月、教育大臣とニュージーランド大使の一泊現地視察を受け入れる

以上